

解答例

設問Ⅰ

問1. a そうぐう b こうずか c あつか(う) d しがい
e ろんし

問2. かつて多くの少年がツチノコを捜して野山を歩き回中、ツチノコが生息していないとされた北海道出身の筆者にとっては、ツチノコは遠い存在だったから。(71字)

問3. ツチノコが実在するかしないかに関係なく、民俗学でいう心意伝承としてのツチノコならば、河童や天狗や鬼たちと同様に、確実に存在しているといえるから。(72字)

問4. 従来の民俗学でツチノコなど未確認動物が取り上げられてこなかったのは、失われた、あるいは失われゆく生活習俗を対象とする傾向が強くと、現在進行形で存在しているものは埒外に置かれることが多かったからである。(99字)

問5. ツチノコは元来は妖怪のような存在だったらしい。そして、民俗学でいう心意伝承としてのツチノコならば、河童や天狗や鬼たちと同じレベルで、確実に存在していた。けれども、民俗学においては、ツチノコにかぎらず、未確認動物を扱った例はほとんどなかった。(120字)

この本は、ツチノコという「幻の蛇」を民俗学の手意伝承という観点で捉え、河童などと並ぶ「妖怪」のような存在だったらしいことを指摘する。従来の民俗学では失われた生活習俗を対象とする傾向があり、ツチノコのような未確認動物はほとんど扱われていない。(120字)

設問Ⅱ

問6. 自分にとっての当たり前が、他者にとっての非常識であることを示す事例。(34字)

問7. 筆者が書いた小説には、素直に思う自分の心が全部書かれているから。(32字)

筆者が自分の小説を読むと、そこに素直に思う自分の心が全部出ていると感じるから。(39字)

問8. 自分が書いた小説には隠したいと思っている自分の心が現れているのに対して、自分が小説家であるということは自分の周りの人間に知られたくないと思っていたということ。(79字)

問9.

- ㉞ 合っている
- ㉟ 合っていない
- ㊱ 合っていない
- ㊲ 合っている
- ㊳ 合っていない